

●艦隊職員勤務令

明治二十七年十一月十日（達一六八）

改正 明治三十一年十二月一五七號、三十四年四月四一號廢止

艦隊職員勤務令別冊ノ通定メラルル但明治十七年丙第三十七號
艦隊職員條例ヲ廢止ス

（別冊）

艦隊職員勤務令

第一條 司令長官ハ麾下艦船ニ於テ明治十五年一月四日ノ勅諭

ヲ屢々奉讀セシメ乗員ヲシテ厚ク

聖旨ヲ遵守奉體セシム可シ

第二條 司令長官旗艦ヲ撰定シ又ハ麾下司令官ノ旗艦ヲ指定シ

若クハ變更シタルトキハ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告ス可

シ

第三條 司令長官ハ司令官ノ幕僚ヲ指定シ其ノ官姓名ヲ麾下一

般ニ公示シ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告ス可シ

第四條 司令長官ハ麾下艦船ノ來歴、現狀、性質、勢力ヲ詳知

シ常ニ艦船ヲシテ其ノ役務ニ應スルノ準備宜シキヲ得セシム

可シ若シ役務ニ適セサルコトヲ發見スルトキハ速ニ海軍大臣

及海軍軍令部長ニ報告ス可シ

第五條 司令長官ハ麾下艦船ノ戰鬪、防火、防水等ニ關セル準

備及部署ヲ詳知シ銳意之カ整頓ヲ督視シ以テ精練ノ度ニ達セ

シム可シ

第六條 司令長官ハ麾下艦船ノ艦體、汽機、汽罐、兵器及需品

等ヲ適當ニ守護保存スルヤ否ヲ監視シ各艦船ヲシテ毫モ之ヲ

怠ラシム可ラス

第七條 司令長官ハ麾下艦船ヲシテ必要ノ糧食需用品ヲ貯藏シ

常ニ出航準備ヲ整頓セシメ役務ニ支障ナカラシム可シ

第八條 司令長官ハ麾下艦船ヲシテ定期速力試験ヲ執行シ又汽機廻轉ノ數ニ對スル速力ノ變化及舵角ニ對スル回轉圈ノ變化ヲ實驗シ速力表及舵角表ヲ調表セシメ之ヲ海軍軍令部長ニ報告シ尙ホ麾下各艦ヲシテ相互ニ知了セシム可シ

第九條 司令長官ハ祝日、祭日、及日曜日ニ於テハ麾下艦船ヲシテ必要猶豫ス可カラサル事業ニ非レハ之ニ從事セシム可カラス

第十條 司令長官ハ艦隊ノ日課内則(軍紀、風紀及衛生等ニ關スル件)及麾下乗員ノ上陸規則等ヲ制定シ又ハ改正シタルトキハ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告ス可シ

第十一條 司令長官ハ麾下艦船長ノ定メタル艦船内規ハ自ら之ヲ檢シ殊ニ艦内警察ニ關スルコトハ各艦等一ナラシムルコトヲ務ム可シ

第十二條 司令長官ハ幕僚及旗艦增加定員ヲ一時麾下艦船ニ分乗セシムルコトヲ得

第十三條 司令長官ハ善ク麾下艦長及幕僚ノ才幹性行技能ヲ察知シ成規ニ從テ自ら其ノ考課表ヲ調製シ又麾下各艦ノ艦副長分隊長及機關長ノ調製セル考課表ヲ熟讀シ麾下諸員ノ人ト爲リヲ詳知スヘシ

第十四條 司令長官ハ麾下艦船ノ准士官以上ノ進級ヲ上薦シ及下士ノ進級ヲ決行スルニハ極テ綿密ニ其ノ才幹、性行、技能停年、功勞等ノ諸點ヲ考慮シ務テ其ノ當ヲ得ルコトニ注意ス可シ

第十五條 司令長官ハ能ク麾下艦船ノ教育、訓練ノ景況ニ注意シ各艦船ヲシテ日課操練ハ勿論演習及射撃其ノ他教育訓練ニ關スル事ハ各其ノ成規ヲ守リ熱心之ニ從事セシム可シ

第十六條 司令長官ハ麾下艦船ヲシテ祕密圖書ノ保管取扱法ヲ

嚴守セシム可シ

第十七條 司令長官ハ麾下艦船ノ醫務衛生及會計給與ノ景況ニ注意シ各艦船ヲシテ之ニ關セル成規ヲ嚴守セシム可シ

第十八條 司令長官ハ麾下艦船ノ石炭及其ノ他需品取扱ノ景況ニ注意シ各艦船ヲシテ之ニ關セル成規ヲ嚴守セシメ總テ浪費ヲ戒メ節約ニ注意セシム可シ

第十九條 司令長官ハ麾下艦船内ノ修理ニシテ實際已ムヲ得サルモノノ外ハ務テ乗員ニテ施行セシム可シ

第二十條 司令長官職ニ補セラレタルトキハ速ニ麾下各艦船ノ檢閲ヲ行ヒ爾後成規ノ檢閲ハ勿論其ノ他必要ト認ムルトキハ之ヲ施行ス可シ

第二十一條 司令長官新補ノ時ニ於ケル檢閲及恒例檢閲ハ自ら之ヲ行フヘント雖モ臨時ノ檢閲ハ麾下司令官、參謀長若クハ艦長ヲシテ己ニ代テ之ヲ行ハシムルコトヲ得但此ノ代理者ハ常ニ檢閲ヲ受クヘキ艦長ヨリ先任官タルヲ要ス

第二十二條 司令長官ハ麾下ノ艦船、艦隊ヨリ除カレタルトキハ之ヲ檢閲スルト否トニ拘ハラズ該艦在隊中一般ノ狀況(就中軍紀、風紀、教育、訓練ニ關シ)ニ意見ヲ附シテ海軍大臣ニ報告シ且其ノ艦體、汽機、汽罐、兵器等ニ關シ改良ノ意見アルトキハ之ヲ本管鎮守府司令長官及新所管長ニ通知スヘシ

第二十三條 司令長官麾下艦船ヲ率ユルトキハ午前七時三十分整合旗ニ依リ各艦船ノ時辰ヲ一定ス可シ

第二十四條 司令長官麾下艦船ヲ率ユルトキハ毎朝軍艦旗掲揚後各艦船ノ景況ニ就キ要用ナリト思惟スル事件(前日中石炭消費額、現在額、汽機廻轉數及當日患日ノ數、上陸ノ士官姓名、需品糧食飲水ノ現在額^{幾日}等ト云フノ類)ヲ指示シ之カ報告ヲ徵ス可シ

第二十五條 司令長官ハ麾下艦船ノ坐礁、衝突、火災等ノ變ニ遭ヒ若クハ汽機、汽罐及兵器ニ重大ナル毀損ヲ生シタルトキハ麾下ノ將校及相當官ヲ以テ査問委員ヲ編制シ損害ノ始末ヲ調査セシメ其ノ報告ニ自己ノ意見ヲ附シテ之ヲ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告シ且相當ノ處分ヲナス可シ

第二十六條 司令長官ハ毎年三月ニ於テ翌年度ノ豫算ニ照シテ該年度内麾下艦船ヲシテ執ラシメント欲スル進退ノ概略ヲ豫定シ(何月ヨリ何月迄ハ大抵東京灣ニ止マリ此ノ間各艦ヲシテ成規ノ銃砲射撃ヲナサシメ何月ハ定規ノ演習ヲ行ヒ何月ヨリ何月迄ハ艦隊相合シテ巡航ヲ行ヒ何月ヨリ何月迄ハ本管鎮守府ニ於テ艦底塗換小修理ヲ行ハシメ何月ヨリ何月迄ハ諸艦散シテ内國及支那朝鮮及露領沿岸巡航ト云フノ類)海軍大臣海軍軍令部長ニ提出ス可シ

第二十七條 司令長官ハ麾下艦船ヲ差遣スル時ハ差遣中該艦ヲシテ履行セシメントスル事件ヲ艦長ニ訓令ス可シ但訓令中ニ示スヘキ箇條ハ時ニ應シテ固ヨリ一定セスト雖モ凡ソ左ノ如キ項目ヲ舉示ス可キモノトス

一 差遣ノ目的

二 出艦ノ時日

三 航路概略

四 帆走若クハ汽走

五 汽走ナルトキハ其ノ汽力

六 差遣中施行スヘキ重ナル試験演習等(自然通風全力試験

艦砲射撃等)

七 差遣中委任ノ條件

八 差遣地若クハ巡航最後ノ地ヨリ歸途ニ就ク可キ期日

第二十八條 司令長官ハ麾下艦船ヲ差遣スルニ當リ其ノ差遣ノ

目的機密ニ屬シ出發前萬一其ノ漏洩スルヲ恐ルルトキハ封筒ニ開封ス可キ場合ト又之ヲ密封ノ儘ニテ返還ス可キ場合トヲ記載シ手カラ之ヲ艦長ニ交附スルカ又ハ參謀ヲシテ之ヲ交附シ領收證ヲ徴セシム可シ

第二十九條 司令長官艦隊ヲ率テ航行スルニ當テハ各艦ヲシテ能ク其ノ位置ヲ保タシムルニ注意セシメ其ノ些少タリトモ位置ノ適當ヲ失スルモノアルトキハ之ヲ矯正スルコトニ於テ毫モ猶豫ス可カラズ

第三十條 司令長官艦隊ヲ率テ巡航スルトキハ暴風雨其ノ他豫知ス可カラザル事故ノ爲メ止ムヲ得ス四散スルコトアルヲ慮リ毎夕信號ヲ以テ再ヒ集合ス可キ地點ヲ示シ置ク可シ又司令長官ハ夜間及霧中ノ識別信號ヲ制定シ(發光信號若クハ汽角信號等ニテ各艦ノ艦隊番號若クハ固有番號ヲ報セシムルノ類)毎夕之ヲ實施シテ其ノ應用ニ慣レシム可シ

第三十一條 司令長官ハ艦隊運動ハ戰術ノ基本タルヲ以テ艦隊巡航中ハ勿論機會アル毎ニ屢々之ヲ施行ス可シ

第三十二條 司令長官ハ戰時艦隊ノ命令、通信、報告等ハ多ク信號ニ依ルヲ以テ之カ熟達ヲ圖ラン爲メ日常ノ命令、通信、報告等務テ信號ニ依ラシメ又之カ爲メ各艦ヲシテ互ニ信號法(殊ニ夜中信號法)ヲ演習セシム可シ

第三十三條 司令長官定所外ニ於テ銃砲射撃及陸戰隊演習等ヲ命スルトキハ之ヲ施行スル土地沿岸ノ景況ヲ察シ若シ人民ノ營業ニ影響スルト認メ又ハ危險ノ恐アルトキハ豫メ地方廳若クハ市郡役所等ニ協議ス可シ又前文ノ如キ憂ナキト雖モ事情之ヲ許ストキハ務テ之ヲ通可ス可シ碇泊中夜間空砲發射演習ヲナストキモ亦此ノ手續ヲ施行ス可シ

第三十四條 司令長官ハ内外國艦船坐礁、火災其ノ他危難ニ罹

レル事實ヲ見聞スルトキハ臨機麾下ノ艦船ニ命シ相當ノ救護ヲナサシムルコトヲ得

第三十五條 司令長官ハ麾下ノ軍艦ヲ率テ發著スルトキ及其ノ碇泊港ニ麾下ノ艦船竝ニ外國軍艦ノ發著スルトキハ其ノ都度速ニ海軍大臣ニ報告ス可シ

但軍港ニ於ケル外國軍艦ノ發着ハ鎮守府司令長官之ヲ報ス可キニ依リ本文ノ手續ヲナスヲ要セス又麾下艦船旗艦所在地外ノ港灣發着ノトキハ其ノ艦船長ヨリ直接ニ報告スルカ故ニ司令長官ハ其ノ手續ヲナスヲ要セザルモノトス

第三十六條 司令長官軍港ニ著スルトキハ速ニ鎮守府司令長官ヲ訪問シ若シ鎮守府司令長官己ヨリ後任ナルトキハ先ツ參謀長ヲ遣ハシテ來意ヲ述ヘシメ鎮守府司令長官ノ來訪ヲ待テ之ニ答禮ス可シ

第三十七條 司令長官地方廳所在ノ港灣ニ入りタルトキハ成規ニ依リ其ノ地方長官ト訪問ヲ交換ス可シ

第三十八條 司令長官外國軍艦ト出會セシトキハ其ノ司令者ノ官階ニ應シ訪問禮砲等成規慣例ニ從ヒ之ヲ執行スヘシ

第三十九條 司令長官ハ特ニ成規アルモノノ外麾下乗員ヲシテ海軍大臣ヘノ上申、伺、報告ハ勿論條例規則等ノ質疑ニ涉ルモノハ己ノ閱覽ヲ經スシテ直接ニ各主務者トノ往復ヲナサシム可カラス

第四十條 司令長官ハ己ノ命令若クハ許可ナクシテ同港ノ麾下艦船日課外ノ事業ヲ爲シ又ハ橋桁ノ上下帆ノ展疊、錨數ノ増減、錨鎖ノ伸縮、汽罐ノ點火埋火及消火其ノ他一般艦外ニ現ハルル重大ノ事業ヲ爲サシム可カラス但艦船保安上急ヲ要スル場合ハ此ノ限ニアラス

第四十一條 司令長官ハ他管ノ軍艦ト雖モ其ノ先任將校己ヨリ

後任ニシテ同港ニ在ルノ間ハ其ノ任務ヲ執行ニ妨碍ヲ與ヘサル限りハ之ヲシテ前條諸件ヲ守ラシム可シ但軍港ニ在テハ此ノ限ニアラス

第四十二條 司令長官己ヨリ先任ナル鎮守府司令長官ノ軍港内互ニ其ノ旗章ヲ見得ル場所ニ在テ第四十四條ノ如キ事業ヲ爲スニハ總テ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ヘシ然レトモ豫メ該長官ヨリ獨立ニ動作スルノ承認ヲ得シトキハ此ノ限ニアラス又己ヨリ後任ノ鎮守府司令長官ノ軍港ニ在テ前文ノ場合ニハ豫メ適當ノ通知ヲナスニ止ム可シ

第四十三條 司令長官ハ艦隊條例第十七條ニ掲クル如ク同港内ニ在ル他管ノ軍艦ヲ指揮シ得ルト雖モ自己ノ意見ニ依テ進退セシメ若クハ其ノ奉受セル祕密訓令ヲ己ニ告知スルコトヲ強ヒ若クハ其奉受セル命令ノ執行ニ干渉スル等ノ處置ヲ爲ス可カラス

第四十四條 司令長官艦隊條例第十七條ニ依リ他管ノ軍艦兵員ヲ使役シタルトキハ速ニ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告シ且該艦所管長官ニ通知ス可シ

第四十五條 司令長官ハ軍機上必要ト認ムルトキハ麾下艦船乗員ヲシテ己ノ閱覽ヲ經スシテ一切ノ私信ヲ發送スルコトヲ禁シ又陸上及他艦船トノ往來交通ヲ禁スルコトヲ得

第四十六條 司令長官ハ巡航區域外ニ麾下艦船ヲ差遣セントスルトキハ之カ參畫ヲ海軍軍令部長ニ提出シ裁可ヲ經ルニ非ザレハ實行スルコトヲ得ス又方面區域内ト雖モ電信ノ便ナキ地ニ差遣スルトキハ少クモ二十四時間前ニ若シ途中寄港ヲ要スルトキハ其ノ最後ノ寄泊港ヲ發スル少クモ二十四時間前(二十四時間碇泊セザルトキハ到着ノ報告ト同時)ニ之ヲ海軍大臣ニ報告ス可シ

第四十七條 司令長官ハ實驗上現行海軍信號書及艦隊運動程式ノ信號ニ追加ヲ要スルトキハ假ニ之ヲ記入シ麾下艦船限リ之ヲ實施セシムルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ速ニ之ヲ海軍軍令部長ニ報告スヘシ

第四十八條 司令長官ハ定規先例アル事務及定規先例ナキモ輕易ナル事務ノ處理ハ參謀長ニ委任シ己ノ名ヲ以テ便宜處分セシムルコトヲ得

第四十九條 司令長官ハ參謀長ヲシテ艦隊ノ樞務ヲ處理セシメ又參謀長ナキトキハ自ラ之ヲ掌理ス可シ

第五十條 司令長官ハ麾下艦船ノ需品ヲ購買シ船隻職工ヲ備ヒ若クハ地所倉庫等ヲ借ルコトヲ得ス若シ必要止ムヲ得ス之ヲ行フトキハ其ノ詳細ヲ海軍大臣ニ報告ス可シ

第五十一條 司令長官ハ麾下艦船ノ修理ヲ要スルトキハ成規ノ手續ヲ履行ス可シ但外國ニ在ルトキ若クハ至急ヲ要スルトキハ便宜處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ之ヲ海軍大臣ニ報告ス可シ

第五十二條 司令長官前司令長官ノ定メタル命令内則ヲ廢止シ若クハ變更スルニ非レハ其ノ命令内則ハ依然効力ヲ存スルモノトス

第五十三條 司令長官艦隊條例第十六條ニ依リ麾下艦船ノ候補生並ニ准士官ノ轉乘ヲ執行シタルトキハ海軍大臣ニ報告ス可シ

第五十四條 司令長官麾下司令官ニ屬スル艦船ニ下ス可キ命令ハ凡テ該司令官ヲシテ傳達セシム可シ若シ便宜上直接ニ下スコトアリタルトキハ別ニ之ヲ該司令官ニモ傳達ス可シ

第五十五條 司令長官ハ本邦諸港ニ在テ必要止ムヲ得サル場合ニ非レハ麾下艦船ニ他人ヲ便乘セシムルコトヲ得ス但便乘ヲ

許可シタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告ス可シ

第五十六條 司令長官其ノ職ヲ退クトキハ海軍省訓令、達等ニシテ未タ之ヲ施行セサルモノ麾下艦船ヨリノ上申、伺等ニシテ未タ處分ヲ了ヘサルモノ等明瞭ニシテ後任司令長官ニ引繼キ且秘密圖書ハ勿論自己ノ從來定メタル艦隊ノ成規、命令其ノ他副任長官ノ參考トナルヘキモノハ皆之ヲ引繼ク可シ

第五十七條 司令長官ハ本邦ニ於ケル島嶼等隔絶シタル地方ニ回航ノ際急劇ノ事變アリ鎮定ノ爲メ兵力ヲ用ユルヲ必要ト認ムル場合ニ於テハ地方官ト合議シ便宜事ニ從フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ成ル可ク速ニ海軍大臣海軍軍令部長ニ報告ス可シ

第五十八條 司令長官外國ニ在テハ左ノ諸項ヲ遵守シ麾下艦船ヲ派遣スルトキハ司令官先任艦長若クハ艦長ヲシテ之ヲ遵守セシム可シ

一 外國ノ港灣ニ到着シ其ノ地ニ駐劄日本公使若クハ領事アルトキハ速ニ之ニ通知シ且其ノ公使領事ト二十四時以內互ニ訪問ス可シ但共ニ官等卑キ者ヨリ先ニシ若シ同等官ナルトキハ司令長官ヨリ先ニス可シ

二 派遣セラレタル外國ニテ内亂ヲ生シ若クハ其ノ外國ト他國ト交戦スルトキハ決シテ其ノ事ニ干渉ス可カラス

三 部下諸員ヲシテ土地ノ官吏若クハ人民ニ對シ粗暴ノ舉動ナカラシム可シ又其ノ制規、慣例ニ違背シ宗教、風俗ヲ蔑視シ其ノ他一般ニ地方官民ノ感情ヲ傷フカ如キ舉動ヲ避ケシム可シ

四 外國官吏ト公事ノ往復ヲ爲スニハ其ノ地駐劄日本公使若クハ領事ヲ經由ス可シ但公使領事不在ノ地ニ於テハ直ニ往復スルコトヲ得

五 操練其ノ他ノ事故ノ爲メ軍裝シタル兵員ノ上陸及銃砲射的ノ施行ヲ要スルトキハ前項ノ手續ニ依テ當該地方官ノ承諾ヲ得ヘシ

六 脱艦人ヲ追捕セントスルトキハ其ノ地駐割日本公使若クハ領事ニ依頼ス可シ公使領事不在ノ地ニ於テハ其ノ地相當ノ官吏ニ請求ス可シ

七 帝國海軍ヲ脱シ外國艦船ニ勤務スル軍人軍屬ヲ追捕シ若クハ本人ヨリ復歸ヲ請求シ來ル者アルトキハ直ニ外國艦船長ト協議シ之ヲ引取り又ハ保護ヲ與フルコトヲ得但之カ爲メ外國艦船長ノ處分ニ干渉シ若クハ妨害ヲ加フ可カラズ

八 外國駐割ノ日本公使若クハ領事ヨリ我國民保護及公務ニ關スル助力ノ請求ヲ受クルトキハ其ノ輕重緩急ヲ酌量シ之ニ應ス可シ但其ノ請求自己ノ奉セル役務及特別訓令ノ輕重緩急ニ照シ到底之ニ應ス可カラスト認定スルトキハ口頭若クハ書面ヲ以テ之ヲ請求ノ公使若クハ領事ニ通知シ且其ノ理由ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ

九 碇泊地ニ在留ノ我國民危難ニ遭フトキハ之ヲ保護ス可シ其ノ方法ハ之ヲシテ艦内若クハ他ノ場所ニ避ケシムルニ限ル但兵員ヲ上陸シ其ノ事ニ干與セシムルハ我國民ノ生命財產ニ非常ノ暴害ヲ被ラントシ其ノ國ノ官吏ノカ保護ノ任ヲ盡サス且他ニ保護ノ道ナキ場合ニ於テノミ爲スコトヲ得ヘント雖モ此ノ場合ニ於テモ成ルヘク其ノ地駐割日本公使若クハ領事ニ協議シ之ヲ經由シテ地方官ノ承諾ヲ求ムルコトニ注意ス可シ

十 碇泊地ニ暴動アリ在留ノ外國人其ノ生命ニ暴害ヲ被ラントシ其ノ地駐割日本公使若クハ領事ヲ經由シ保護ノ請求

ヲ爲ストキハ該國ノ軍艦其ノ地ニ現在セス且我艦務ニ支障ナキトキニ限り之ヲ承諾スルコトヲ得若シ日本公使領事不在ノ地ナルモ我國ト和親ノ外國公使又ハ領事若クハ地方官ヲ經由保護ヲ請求スルトキハ事情ヲ酌量シ之ニ應スルコトヲ得但其ノ保護ノ方法ハ艦内ヲ以テ避難所トシ又ハ端舟ヲ以テ他ノ場所ニ避ケシムルニ限ルモノトス又碇泊地ニ政治上ノ擾亂アリ之ニ關セルモノ切迫ノ危難ヲ避クル爲メ保護ヲ乞フモノアルトキ事急ニシテ其ノ地駐割日本公使又ハ領事ニ協議スルノ違ナキトキハ自ら其ノ保護ス可キヤ否ヲ斷決シ臨機相當ノ處置ヲ以テ之ヲ艦内ニ保護スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該避難人ヲシテ其ノ黨人ト通信スルコト勿ラシメ又務テ速ニ之ヲ安全ノ地ニ移ス可シ

十一 止ムヲ得ザル場合ニ於テハ外國人民ヲシテ我艦船ニ便乗セシムルコトヲ得

十二 外國船舶ニ傭役セラル、我國民苛酷ノ取扱ヲ受クルコトヲ確認シタルトキハ其ノ地駐割日本公使若クハ領事ニ其ノ事情ヲ通知シ以テ相當ノ處分ヲ請求ス可シ公使領事不在ノ地ニ於テハ其ノ地方官ニ請求ス可シ

十三 我船舶外國人ニ脅迫セラレ其ノ國ノ軍隊若クハ貨物ヲ運送シ或ハ戰爭ニ干與スル者アルヲ認ムルトキハ其ノ地駐割日本公使若クハ領事ニ照會シ公使領事不在ノ地ニ於テハ其ノ地方官ニ照會シ若クハ其ノ他ノ方法ヲ以テ其ノ脅迫ヲ免レシムル處分ヲ爲ス可シ

十四 海賊アルトキハ之ヲ捕獲ス可シ其ノ洋中ニ於テ捕獲セシモノニシテ本國ニ護送シ難キ事情アルトキハ便宜港ニ到リ電信ヲ以テ詳細ニ事情ヲ申報シ指令ヲ乞フ可シ

十五 第九項第十四項ニ掲タル如キ火急ノ事件我國民ト外國

人民ニ相關係スルニ當リテハ外國艦隊司令官若クハ艦長ト連合協力スルヲ得然レトモ各項ニ定メタル權限ヲ超ユ可カラス

十六 艦内ニ死者アルトキハ其ノ地駐劄日本公使若クハ領事

ヲ經由シテ地方官ニ照會シ葬地ヲ買收シテ葬式ヲ行フコトヲ得但公使領事不在ノ地ニ於テハ直ニ其ノ地方官ニ照會ス可シ

十七 麾下艦船中ニ本邦ニ歸航セシム可キモノアルトキハ他

ノ尙ホ滞在ス可キ艦船内ニ本國ニ送還スルヲ得策トスル患者ナキヤ又服役滿期者ナキヤヲ調査シ若シ之アルトキハ該艦ニ便乘歸朝セシム可シ但疾病ノ性質狀況果シテ送還ヲ要ス可キヤ否ヲ決スルニハ參謀長若クハ旗艦艦長ト艦隊軍醫長ノ調査報告ヲ徵シ又服役滿期者ヲ歸國セシムルヤ否ハ時務ノ緩急ヲ酌量シテ之ヲ決ス可シ

十八 前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ歸國ス可キ艦船

ノ下士卒及需品等ヲ割テ尙ホ滞在ス可キ艦船ノ定員及需品ノ缺乏ヲ補充スルコトヲ得但之カ爲メ歸國ス可キ艦船ノ途中ニ於ケル事變及荒天ニ對スル準備ヲシテ危險ノ度ニ至ラシムルマテ滅殺セサルコトニ注意ス可シ

十九 我國民ニシテ便乘ヲ乞フモノアリテ公使若クハ領事ヨ

リ之カ請求ヲ受クルトキハ便乘ヲ乞フモノ、職業、目的等ヲ質シ公益上之ヲ許シテ至當ト認メ且軍艦ノ體面上之ヲ許スモ支障ナシト認ムルトキハ其ノ請求ニ應スルコトヲ得

二十 第六項ヨリ第十五項ニ至ル事項ヲ處分シタルトキハ其

ノ都度速ニ海軍大臣ニ届出ツ可シ

第五十九條 司令長官戰時ニ於テハ特ニ左ノ諸項ヲ遵守ス可シ

一 熱心麾下ノ兵氣ヲ鼓舞シ益々軍人ノ精神ヲ發揮セシメ亦

一層軍法ノ嚴正ヲ維持スルコトニ注意ス可シ

二 特ニ旗ノ掲揚ニ注意シ麾下諸員ヲシテ死ニ至ル迄之ヲ仰

キ之ヲ守護スルノ決心ヲナサシム可シ

三 戰鬪ニ臨ムニハ麾下司令官及艦船長ヲ會シ己ノ執ラント

欲スル戰略ヲ詳知セシメ方略部署ヲ明示シ克ク各艦船ノ

部署ヲ了解セシメ置ク可シ而シテ信號ヲ見解シ能ハサル

トキニ於テ止ムヲ得サル場合ノ外決シテ此ノ方略部署ヲ

變更セシム可カラス

四 前項ノ司令長官ハ司令官、參謀長、旗艦艦長ニ現時戰略

竝ニ將來ノ方針ヲ綿密ニ詳知セシム可シ

五 麾下司令官及艦船長ノ外ニ漏洩セシム可カラサル秘密信

號ヲ制定ス可シ

六 碇泊航海ヲ論セス常ニ麾下艦船ノ種類、隻數、勢力等ニ

應シ相當ノ警戒ヲナス可シ

七 徵發ヲ行フトキハ善ク其ノ條規ニ注意ス可シ

八 麾下艦船ノ中戰死者多ク爲メニ戰鬪シ難キモノアルトキ

ハ便宜他ノ尙ホ戰死者少キ艦船ノ乘員ヲ割テ之ヲ補充シ

又需品、糧食等缺乏ヲ生シタルモノアルトキモ亦之ニ準

ス可シ

九 糧食缺乏シ且急ニ之ヲ得ルノ途ナキトキハ同所ニ在ル艦

隊一般平等ニ減食ヲ令ス可シ

一合戰後ハ死傷者ノ員數、彈藥、水雷、需品、糧食ノ消費竝ニ艦體、兵器毀損ノ報告ヲ徵シテ適當ノ處分ヲナシ且更ニ一層ノ熱心ヲ以テ兵氣ヲ鼓舞ス可シ

十一 一合戦後ハ麾下司令官各艦船長及副長ヲシテ戦況報告ヲ出サシメ自ラ一般ノ要領及麾下諸員ノ動作ヲ詳記シ海軍大臣及海軍軍令部長ニ報告ス可シ

十二 戦時國際法ニ關シ遵守ス可キ事項ハ豫テ能ク之ニ關スル諸書ヲ參觀シテ其ノ要點ヲ熟知シ臨機自己ノ相當ト思考スル處分ヲナス可シ但臨時特別ノ訓令アルトキハ此ノ限ニアラス

十三 戦時局外中立ノ場合ニ於テハ嚴正ナル中立ヲ保チ麾下一致ヲシテ之ヲ遵守セシム可シ又我帝國ト平和ヲ保テル國ニ依テ封鎖セラル、港灣アレハ封鎖ヲ認識シ所在帝國臣民ヲシテ該封鎖ヲ破ラシメサル様注意ス可シ

十四 帝國ト他國ト戰爭ノ場合ニ於テハ麾下一般ヲシテ平和ヲ保テル諸國ニ對シテ中立法ニ於ケル義務ヲ嚴守セシム可シ

十五 捕虜ヲ虐待セシム可カラス

十六 常ニ商船ノ所在運動ニ注意シ艦隊ノ戰略及特別訓令ノ執行ニ支障ヲ生セサル限リハ之ニ保護ヲ與フルコトニ注意ス可シ

十七 戦闘中司令官死亡スルモ敵影見ユル間ハ依然其ノ旗章ヲ掲ケ且先任順ニ從ヒ參謀長若クハ旗艦艦長ヲシテ假ニ其ノ職務ヲ攝行セシム可シ

十八 前項ノ場合ニ祕密信號ヲ以テ之ヲ現場ノ先任將校ニ通知ス可シ

前項ノ先任將校ハ好機會アレハ務メテ速ニ亡司令官ノ旗艦ニ移リテ司令權ヲ繼續シ尙ホ前司令官ノ旗章ヲ掲ケ指揮ヲ司ル可シ但此ノ先任將校ノ旗章モ此ノ間依然前艦ニ掲ケ置ク可シ

第六十條 司令官ハ毎年五月三十日マテニ海軍省ニ達ス可キ目的ヲ以テ前年度ニ於ケル緊要軍事上ノ年報ヲ海軍大臣ニ報告ス可シ

一 各艦船ノ運動及從事シタル役務ノ性質石炭ノ消費高汽機汽罐ノ現状

二 各艦船ノ一般狀況及能力施行シタル諸演習銃砲射撃ノ狀況成績各種水雷ノ發射及實驗艦隊運動及戰術研究ノ要領

三 麾下軍紀、風紀ノ概要服役滿期者逃亡者軍法會議處刑懲罰ニ關スル事項

四 麾下各艦船ノ醫務衛生會計給與ニ關スル事項

第六十一條 司令官ハ平素己カ麾下ニ分轄セシメラレタル艦船ニ對シテハ司令官ノ職務ヲ規定スル箇條ニ准シ職務ヲ行フ可シ但第十四條ノ准士官以上ノ進級ニハ司令官ノ意見ヲ開申スルコトヲ得又下士以下ノ進級ハ能ク各自ノ才幹、性行、技能、停年、功勞等ノ諸點ヲ考慮シ司令官ニ上申ス可シ

第六十二條 司令官ハ司令官ニ對シテ其ノ責ニ任ス可キカ故ニ麾下艦船ヨリノ諸上申、報告、伺等ハ悉ク之ヲ審査シテ己ノ權限内ニ屬スルモノハ直ニ處分シ進達ス可キモノニハ意見ヲ附シテ司令官ニ差出ス可シ又自己ノ責任ヲ盡サンカ爲メ必要ト認ムルトキハ司令官ノ命令ナキモ臨時ニ麾下艦船ノ檢閲ヲ行フコトヲ得

第六十三條 司令官ハ司令官ノ職務ヲ規定スル箇條ニ准シ職務ヲ行フト雖モ其ノ海軍大臣海軍軍令部長ニ上申若クハ報告ス可シトアルノ場合ハ特令アルニアラサレハ總テ司令官ヲ經由ス可シ

第六十四條 司令官ハ艦隊巡航中若クハ運動施行中ハ己カ小隊ニ屬スル艦船ノ舉動ノミナラス他ノ小隊諸艦ノ動作ニモ注意

シ若シ其ノ怠慢若クハ錯誤ヲ認メシトキハ他小隊ノ艦船ト雖モ左ノ如キ場合ニ限り其ノ艦ヲ指名シテ之ヲ矯正スルコトヲ得

一 怠慢若クハ錯誤ヲナセシ軍艦ノ位置ト時ノ情態(炭烟、雨霧等アル場合)ニ依リ直轄ノ指揮官之ヲ認メ得サルヘシト思惟スル場合

二 後任將校ノ麾下ニ屬スル艦船ニシテ怠慢若クハ錯誤アルモ之ヲ矯正セサル場合

第六十五條 司令官ハ戰闘中ハ能ク己ノ麾下ヲ指揮スルハ勿論近傍諸艦ノ舉動ヲ監視シ熱心ニ司令長官ヲ補佐ス可シ又戰闘中司令長官死去スルコトアルトキハ第五十九條第十七項第十八項及第十九項ニ依テ之ニ應ス可シ

第六十六條 參謀長ハ司令長官ノ幕僚諸員ノ職務ヲ監督ス可シ第六十七條 參謀長ハ司令長官不在中特ニ委任セラレタル事件ハ司令長官ノ名ヲ以テ命令ヲ出スコトヲ得

第六十八條 參謀長ハ艦隊日誌ヲ所持シ艦隊艦船日々ノ所在、進退、演習及重大ナル事件ヲ記錄シ常ニ艦隊ノ事歴ヲシテ明瞭ナラシム可シ

第六十九條 參謀長ハ司令長官ノ命令ヲ發シタルトキハ其ノ實行如何ヲ監視ス可シ

第七十條 參謀長ハ檢閲ノトキ司令長官ニ隨從シテ檢閲事務ヲ補佐ス可シ

第七十一條 參謀長ハ司令長官麾下司令官及艦船長ヲ會シ軍議ヲ開クトキハ常ニ之ニ參與シ其ノ記錄ヲ掌理ス可シ

七十二條 參謀長ハ參謀事務ニ關シテハ艦隊ト海軍軍令部トノ氣脈ヲ通スル爲メ己ノ名ヲ以テ直接ニ海軍軍令部長及局長ト公文ノ往復ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 參謀長ハ司令長官死去スルカ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ司令權ヲ執ルコト能ハサル場合ニ於テハ直ニ之ヲ司令長官ニ亞ク先任將校ニ通知シテ其命令ヲ待ツ可シ但參謀長自ラ司令長官ニ亞クノ先任者タルトキハ後任司令長官ノ司令權ヲ執ルマテ代テ其ノ職務ヲ攝行ス可シ

第七十四條 參謀長ハ戰時ニ於テ前條ノ場合ニ際會スルトキハ第五十九條第十七項ヲ遵守ス可シ

第七十五條 司令長官ノ幕僚タル先任參謀ハ參謀長ノ指揮ヲ受ケ軍事ニ係ル參謀事務ヲ分擔ス可シ

第七十六條 司令長官ノ幕僚タル後任參謀ハ司令長官ノ差使命令傳達信號施行ノコトヲ分擔ス可シ

第七十七條 司令官ノ幕僚タル先任參謀ハ司令官ノ命令ヲ受ケ司令官ノ麾下艦隊ニ關スル參謀事務ヲ整頓シ第六十六條ヨリ第七十一條マテノ參謀長ノ職務ヲ遵守ス可シ

第七十八條 司令官ノ幕僚タル後任參謀ハ司令官ノ差使命令傳達信號施行ノコトヲ分擔ス可シ

第七十九條 司令官ノ參謀ハ直接ニ司令長官若クハ參謀長ヨリ命令ヲ受クルコトアル可シ此ノ時ハ務メテ速ニ之ヲ司令官ニ申述ス可シ

第八十條 秘書ハ艦隊條例ニ示ス如ク庶務ヲ整理スルノ外軍機ニ涉ラサル秘密文書ヲ掌リ官印ヲ監守ス

第八十一條 航海長ハ艦隊艦船ノ航海事務ニ關スル事ヲ詳知ス可シ

第八十二條 航海長ハ其ノ主管ニ關シ司令長官ニ具申若クハ報告スル場合ハ總テ參謀長ヲ經由ス可シ

第八十三條 航海長ハ檢閲ノトキ司令長官ニ隨從シ左ノ諸項ニ關スル報告調製ヲ分擔ス可シ

一 航海及信號ニ關スル圖書器具竝ニ旗章ノ管理艙内貯積ノ方法當ヲ得タルヤ否

二 航泊日誌及航海ニ關スル諸報告ハ適當ニ調製シアルヤ否
 第八十四條 航海長ハ主管ノ需品竝ニ器具ヲ整理シ又艦隊艦船航海長主管需品竝ニ器具ノ整理ヲ監視ス可シ

第八十五條 航海長ハ艦隊艦船ノ航海ニ關スル諸報告、上申、伺等ヲ審査シ其ノ指令スヘキモノハ指令案ヲ起草シ又意見アルモノハ意見ヲ附シ司令長官ニ差出ス可シ

第八十六條 航海長ハ其ノ主務ニ關シ艦隊艦船ノ航海長ヲ召喚シ臨時報告ヲ徵シ訓令ヲ發シ若クハ補助ヲ要スルコトアルトキハ司令長官ニ具申ス可シ

第八十七條 航海長未測ノ港灣ニ至リ時機之ヲ許ストキハ司令長官ニ具申シ各艦船航海長ヲ集メ自ら班長トナリ略測圖ヲ製シ司令長官ニ差出ス可シ

第八十八條 機關長ハ艦隊艦船ノ汽機汽罐其ノ他機關長ノ主管ニ屬スル兵器及機械ノ構造狀態及能力ヲ詳知ス可シ
 第八十九條 機關長ハ其ノ主務ニ關シ司令長官ニ具申若クハ報告スルニハ總ヲ參謀長ヲ經由ス可シ

第九十條 機關長ハ艦隊艦船ノ汽機汽罐其ノ他機關長ノ主管ニ關スル兵器及機械ノ検査若クハ試驗ヲ執行スルモノアルトキハ司令長官ノ認可ヲ得テ之ニ臨ミ其ノ結果ヲ司令長官ニ報告ス可シ

第九十一條 機關長ハ司令長官檢閲ノ時隨從シ左ノ諸項ニ關スル報告調製ヲ分擔ス可シ

一 汽機、汽罐其ノ他機關長ノ主管ニ屬スル兵器及機械ノ現狀如何又其ノ豫備器具ハ實際ニ符合ヲ試ミタルヤ否
 二 機關長主管艦屬品需品及其ノ貯蓄庫ノ現狀如何又其ノ整

理ノ方法當ヲ得タルヤ否
 三 石炭其ノ他需品ノ質良好ニシテ定額ヲ有スルヤ否又其ノ經濟ニ關スル注意如何

四 機關來歴、圖書、機關日誌其ノ他緊要書類ノ整理如何
 五 機關部員ノ部署

六 機關士勤務錄竝部署表ノ記入如何
 七 機關部工場ノ狀態竝作業ノ程度如何

第九十二條 機關長ハ常ニ艦隊艦船ノ汽機、汽罐其ノ他諸機械ノ保存、修理、検査及試驗成績等ニ關スル書類ヲ蒐集シ其ノ効力増進及整理等ニ關シ意見アルトキハ之ヲ司令長官ニ具申ス可シ

第九十三條 機關長ハ艦隊艦船ノ汽機、汽罐其ノ他諸機械ノ修理改造等ノ上アルトキハ之ヲ審査^{必要ト認ムルトキハ之ヲ臨檢シ}至當ト認ムルトキハ乘員ヲ以テ作シ得ルモノト造船部ノ手ヲ藉ルヘキモノトヲ判別シ意見ヲ司令長官ニ具申ス可シ

第九十四條 機關長ハ艦隊艦船ノ機關ニ關スル諸報告、上申、伺等ヲ審査シ指令ス可キモノハ指令案ヲ起草シ意見アルモノハ意見ヲ附シ司令長官ニ差出ス可シ

第九十五條 機關長ハ艦隊艦船能ク石炭其ノ他需品ノ消費節約ノ趣意ヲ遵守スルヤ否ニ注意シ又其ノ品質ノ良否ヲ調査シ意見アルトキハ司令長官ニ具申ス可シ

第九十六條 機關長ハ其ノ主務ニ關シ艦隊艦船ノ機關長ヲ召喚シ或ハ臨時報告ヲ徵シ或ハ訓令ヲ發シ或ハ補助ヲ要スル等ノ事アルトキハ司令長官ニ具申ス可シ

第九十七條 軍醫長ハ艦隊艦船醫務衛生ニ關スルコトヲ詳知ス可シ
 第九十八條 軍醫長ハ其ノ主務ニ關シ司令長官ニ具申若クハ報

告スル場合ハ總テ參謀長ヲ經由ス可シ

第九十九條 軍醫長ハ檢閱ノトキハ司令長官ノ命ニ從ヒ左ノ諸

項等ヲ閱視ス可シ

一 艦内ノ衛生狀況

二 艦船ノ構造ニ關スル衛生狀況

三 兵員ノ健否、被服糧食及飲用水ノ適否

四 患者ノ狀況處置及治療法

五 病室藥室ノ整備及治療品ノ保存法

六 軍醫官掌理ノ諸書類

七 患者救急法運搬法及其ノ教授ノ方法

八 軍醫部員ノ部署法及治療準備

第一百條 軍醫長ハ艦隊艦船ノ醫務衛生及治療品ニ關シテ意見ヲ

ルトキハ之ヲ司令長官ニ具申ス可シ

第一百一條 軍醫長ハ艦隊艦船ノ醫務衛生ニ關スル諸報告、上申、

同等ヲ審查シ其ノ指令スヘキモノハ指令案ヲ起草シ又意見ヲ

ルモノハ意見ヲ附シテ司令長官ニ差出ス可シ

第一百二條 軍醫長ハ其ノ主務ニ關シ艦隊艦船ノ軍醫長ヲ召喚シ

臨時報告ヲ徵シ訓令ヲ發シ若クハ補助ヲ要スルコトアルトキ

ハ司令長官ニ具申ス可シ

第一百三條 軍醫長ハ艦隊艦船ニ傳染病發生スルトキハ司令長官

ニ具申シ其ノ現況ヲ速ニ海軍衛生會議議長ニ報告ス可シ

第一百四條 軍醫長ハ艦隊各艦軍醫ヨリ出ス所ノ醫務衛生ニ關ス

ル統計報告類ヲ調査シ海軍衛生會議議長ニ出ス可シ

第一百五條 軍醫長ハ本令ノ外海軍軍醫官服務細則ニ據リ服務ス

可シ

第一百六條 主理ハ艦隊一般ノ海軍檢察正當ニ行ハル、ヤ否ヲ詳

知ス可シ

第一百七條 主理ハ其ノ主務ニ關シ司令長官ニ具申若クハ報告ヲ

ナストキハ總テ參謀長ヲ經由ス可シ

第一百八條 主理ハ檢察審問判決ノ具申若クハ再審ノ申訴特赦ノ

申請アルトキハ之ヲ調査シ司令長官ニ意見ヲ具申ス可シ

第一百九條 主理ハ司令長官ノ命ヲ受ケ裁判徵罰其ノ他軍事司法

ニ關スル命令若クハ指令ノ文案ヲ草シ及其ノ事務ニ服ス可シ

第一百十條 主理ハ左ノ事項ニ付常設軍法會議主理ト氣脈ヲ通シ

正當ヲ得セシムルコトヲ務ム可シ

一 法律ノ解釋

二 治罪ノ手續

三 刑ノ適用

第一百十一條 主理ハ三月毎ニ審問判決ノ事件表ヲ作り司令長官

ニ具申ス可シ

明治三十一年十二月十日 (達 一五七)

艦隊職員勤務令中左ノ通改正セラル

第八十條中「庶務ヲ整理」ノ下ニ「シ幕僚所屬ノ金櫃ヲ保管シ

及之ニ關スル會計事務ヲ掌理」ノ二十五字ヲ加ヘ第一百五條ノ次

ニ左ノ諸條ヲ追加シ第一百六條以下順次繰下ク

第一百六條 主計長ハ艦隊艦船ノ會計事務及給與ニ關スルコトヲ

詳知スヘシ

第一百七條 主計長ハ其ノ主務ニ關シ司令長官ニ具申若クハ報告

スル場合ハ總テ參謀長ヲ經由スヘシ

第一百八條 主計長ハ司令長官檢閱ノ時隨從シ左ノ諸項ヲ閱視ス

ヘシ

一 金櫃ノ現況及經費ノ準備出納保管ノ適否

二 被服物品ノ準備貯藏及出納保管ノ適否

三 糧食品ノ準備貯藏配給及出納保管ノ適否

四 主計長主管需品ノ準備貯藏及出納保管ノ適否

五 金錢物品ニ關スル帳簿及計算書類ノ整否及記註ノ可否

六 軍艦經費爲替拂順序施行上ノ可否

七 庶務ノ整理及法令規則ノ加除改正等訂正シアルヤ否

前諸項ノ外會計給與上處分スヘキ事項處分ノ了否其ノ他主務

ニ關シ必要ト認ムル事項

第九條 主計長ハ常ニ其ノ監督ニ屬スル金櫃及其ノ會計事務

ノ整理ヲ監視シ機動費ノ準備及之カ支出ノ當否ヲ精査スヘシ

第十條 主計長ハ常ニ艦隊艦船ノ被服糧食ノ準備及支出現況

ニ注意シ被服糧食ニ關スル諸規程訓令等ノ施行ヲ監視シ其ノ

施行ノ周到ヲ期スヘシ又役務ノ必要ニ依リ被服物品若クハ糧

食品ノ準備ニ關シ意見アルトキハ司令長官ニ具申スヘシ

第十一條 主計長ハ艦隊艦船ノ會計給與ニ關スル諸報告、上

申、伺等ヲ審查シ其ノ指令スヘキモノハ指令案ヲ起草シ又意

見アルモノハ意見ヲ付シ司令長官ニ差出スヘシ

第十二條 主計長ハ常ニ艦隊艦船ノ會計給與上能ク節約ノ趣

意ヲ遵守スルヤ否ニ注意シ特ニ物品ノ購買ニ關シテハ能ク其

ノ手續ヲ盡シタルヤ否ヤヲ監視ツ意見アルトキハ司令長官ニ

具申スヘシ

第十三條 主計長ハ其ノ主務ニ關シ艦隊艦船ノ主計長ヲ召喚

シ臨時報告ヲ徴シ訓令ヲ發シ若クハ補助ヲ要スルコトアルト

キハ司令長官ニ具申スヘシ

第十四條 主計長ハ常ニ艦隊艦船ノ會計及給與事務ノ進行ニ

注意シ各艦船ニ於テ處分スヘキモノハ成ルヘク速ニ其ノ處分

ヲ結了セシメ若シ其ノ事務ノ進行上ニ關シ報告ヲ要スルトキ

ハ主計長ヲシテ之ヲ報告セシメ又臨時閱視ヲ要スルトキハ司

令長官ノ認可ヲ得テ之ヲ行フコトヲ得

第十五條 主計長ハ其ノ主務ニ關シ艦隊艦船ノ帳簿其ノ他書

類ノ調査ヲ必要ト認ムルトキハ司令長官ノ認可ヲ得テ艦船長

ニ照會シ主計長ヲシテ之ヲ提出セシメ若クハ之ヲ臨檢スルコ

トヲ得